



WORLD FEDERATION
OF THE DEAF

メディア声明「2027年第20回WFD世界会議」 の開催地に関する評議員会の決定について



国際手話版は[ここをクリック](#)



2023年7月12日

世界ろう連盟（WFD）は、4年に1回、「WFD世界会議」と「WFD評議員会」を開催しています。WFDには137の正会員がいます。「WFD評議員会」は、WFDの最高レベルの意思決定機関であり、行動計画、理事会メンバー、次回の「世界会議」開催地などを決定します。

「WFD規約」と「WFD世界会議ガイドライン」（以下、2つを併せて「WFDガイドライン」とする）は、次回の「WFD世界会議」を開催する正会員を選出するプロセスを定めています。「WFDガイドライン」には、「世界会議」が、LGBTQIA+を含め様々なトピックを扱うことが明記されています。立候補者は、「WFDガイドライン」に従うことが期待されます。「WFDガイドライン」では、「世界会議」の目的、立候補地への期待、「世界会議」の開催能力を評価するために立候補地を訪問する現場視察チームについて概説しています。現場視察チームは、WFD理事2名とWFDYS理事1名で構成さ



WORLD FEDERATION
OF THE DEAF

れ、3名と一緒に各立候補地を評価します。

今年の初め、現場視察チームは立候補国のうちノルウェーとアラブ首長国連邦（UAE）の2カ国を訪問しました。また、ナイジェリアは、安全上の懸念があったため、ウェブ会議を行いました。

現場視察チームの結果はWFD理事会と共有されました。WFD理事会は、評価情報に基づき、評価情報を正会員と共有する際に、UAEが「2027年世界会議」を開催することを推薦する内容を含めることに合意しました。

7月10日に韓国・済州で開催された「第21回WFD評議員会」では、投票の前に、立候補3カ国が自国について評議員会に対しプレゼンテーションをする機会がありました。この過程で、UAEの立候補に関するいくつかの新情報が明らかになり、「世界会議」で発表者がLGBTQIA+の問題について発表することができるのか、LGBTQIA+の人々の安全が守られるのかについて懸念が提起されました。WFD理事会は、UAEが「2027年世界会議」を主催するという推薦を速やかに撤回しました。評議員会はその後、「WFD規約」に従って、次回の「世界会議」の開催地について投票を行いました。評議員会は、UAEが「2027年世界会議」を主催することを可決しました。

WFD理事会は、「WFD評議員会」の執行権限を認めつつも、今回の決定が苦悩を引き起こし、インクルージョン（特にろうのLGBTQIA+のインクルージョン）に対し深刻な疑問を投げかけていることに非常に悩んでいます。

WFDの理念は、人種、国籍、宗教、ジェンダー、性的指向、年齢、その他あらゆる違いにかかわらず、すべての人々の平等、人権、尊重であることを改めて表明します。WFDは、手話言語を使うろう者とその友人や家族に焦点を当て、人権に関する多くの国連条約を支持・推進する活動をしています。WFDは、すべての人にとってより良い世界を作るための連帯と団結を目的として活動しています。



WORLD FEDERATION
OF THE DEAF

WFDはまた、人種、皮膚の色、ジェンダー、セクシュアリティ、言語、宗教、政治的意見、国民的な種族的な、先住民族としての若しくは社会的な出身、年齢によって、また、オーディズム（聴覚至上主義）による態度や行動によって、ろう者が、複合的又は加重的な形態の差別を受ける可能性があることを認識しています。周縁化された集団に属するろう者は、歴史的、社会的、政治的文脈に基づく交差的な差別を経験することもあります。

評議員会の決定を受け、WFDはUAE代表団との緊急会談を要請し、現在、「2027年世界会議」におけるLGBTQIA+に関するトピックや、LGBTQIA+の人々のインクルージョンに関する状況を明確にするため、1対1の対話を行っています。WFD理事会は、UAE正会員に対し、「世界会議」と「WFDYSキャンプ」におけるすべてのろう者の安全とインクルージョンについて説明責任を果たすよう求めています。

WFDに詳しい情報が入り次第、最新情報を提供します。